

令和3年第1回尾張旭市環境審議会意見等

1 報告事項

(1) 重点取り組み事項について			
	分野別目標	審議会での意見・質問	回答
ア	2 ごみのないまちづくり	ごみ減量のため、ごみの分別の徹底（特に資源ごみ）や、生ごみの減量化に取り組んでほしい。 市民の高齢化に伴い使い捨てパンツ等のごみの増加が懸念されると思います。	ごみの減量、資源化、適正処理を図るため、市民への情報提供や啓発を継続して行っています。リサイクルひろばが市役所駐車場南側へ移転し、市民のかたにとってより分かりやすくなった機会を捉え、さらにごみの分別や資源化について啓発を行ってまいります。
イ	3 地域で地球を考えるまちづくり	公民館や保育園での空調設備更新により、どの程度の温室効果ガス排出が削減できたか可能であれば公開した方がよいと思います。	令和元年度についても公民館及び保育園での空調設備更新を実施しているため、平成30年度と令和元年度の温室効果ガス排出量の比較をお示しします。（裏面のとおり） 令和元年度は平成30年度と比較して、温室効果ガス排出量が減少していますが、工事や新型コロナウイルス感染症対策に伴う利用停止による削減効果も含まれていると考えられます。 なお、市全体の温室効果ガス排出量については、「尾張旭市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）年度実績年次報告書」により前年度の排出量を翌年度に集計し、毎年公表しています。
ウ	4 自然とふれあうまちづくり	農地には生物多様性の保全、生態系ネットワークの形成、気温・水害調整などの大きな能力があるが、農地を守っていくことは個人の努力では難しいため、行政の働きかけを望みます。 まちづくりの中で、農地と池や雑木林など広い地域を1つのまとまりとして保全していくことを提案します。	御意見のとおり、農地を含む緑地や水辺には生物の生息・生育場所であると同時に、防災面の機能や市民の憩いの場所になるなど、多面的な効果があります。 市として計画的な土地利用、自然保護の啓発などにより保全をしていくことが必要と考えており、今回の御意見は今後の参考とさせていただきます。
エ	5 暮らしやすい快適なまちづくり	空き家対策に取り組んでほしい。	尾張旭市空き家対策計画に基づき、「空き家化の予防」、「空き家の流通・活用促進」、「管理不全な空き家対策の推進」、「跡地利用の誘導」の4つの取り組みを進めています。引き続き、適正管理の啓発や専門団体の相談窓口との連携などの空き家対策に取り組んでまいります。
(2) 自然環境基礎調査について			
ア	大変意味のある取り組みと考えます。所属に関する事柄がありましたら、御相談させていただきたくお願いいたします。		該当事案があった際はよろしくお願いたします。
イ	尾張旭市の基礎的な情報を収集するための大変重要な事業だと思います。 動植物の調査については、対象はどの範囲でお考えでしょうか。主要な分類群（例えば哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類、維管束植物、コケ類のような）について全種ということになりますか。市内に生息する生物全般、特に昆虫、植物など全体となるとかなりの専門性が要求され、調査員として複数の専門家に声をかける必要があると思います。 調査はどちらの団体・専門家に依頼される予定か、また、調査にあたり見込んでいる予算等がどうなっているか、公開可能な範囲で伺いたいと思います。		動植物の調査範囲、調査方法等の詳細については、今後検討してまいります。今回の御意見は調査方法の検討の際に参考とさせていただきます。 調査は令和3年度から令和4年度までの2か年で実施し、予算額は合計8,000千円となっております。
ウ	コロナ禍の生活で里山（自然）のありがたさ、「山辺の散歩道」が市民にとって必要だということがより分かりました。 自然環境調査はある一定の場所に限定せず隣接民有地、神社林等も含めて考えるべきです。生物によっては、そこに営巣していなくても、移動やエサ場として広い範囲を利用することも加味する必要があり、「歴史的景観」の保全も大事だと思います。 まちづくりの在り方の検討には、希望する市民（子ども検討も含み）、多様で多数の市民で検討し、行政がたたき台（案）を作らず、ゼロから始めるのが望ましいと思います。行政が事務方に徹しないと市民のためのまちづくりとは言えず、いい物にはなりません。		自然環境基礎調査は市域の自然環境を把握するとともに、ため池・河川、神社・寺院、公園、生産緑地地区等の分布状況といった地理的項目もふまえて、市域の特徴をとらえることが重要であると考えております。 動植物の調査範囲、調査方法等の詳細については、今後検討してまいります。今回の御意見は調査方法の検討の際に参考とさせていただきます。 また、まちづくりの在り方の検討方法につきましても今回の御意見は今後の参考とさせていただきます。

	平成30年度		令和元年度			
	電気使用量 (kWh)	温室効果ガス 排出量(t-CO ₂)	電気使用量 (kWh)	温室効果ガス 排出量(t-CO ₂)	電気使用量 増減比(%)	温室効果ガス排 出量増減比(%)
公民館	450,324	251,331	428,795	178,656	▲ 4.78	▲ 28.92
保育園	474,535	225,879	460,408	208,104	▲ 2.98	▲ 7.87